



聖恋学院
学園祭

Vol. 1

原作： フルーツ牛乳2ツル
イラスト：ゆーちゃん

プロローグ

私立聖^{せい}恋^{れん}学院。男女共学で偏差値や部活動のレベルも普通程度。どこにでもあるこの若者達の青春の場は、一週間後に迫った学園祭の準備に慌ただしかった。

各クラス、各部活の出し物の準備に励む中、一人の女子生徒が慌ただしく準備に動いていた。1年B組の『空木^{うつぎ}ふみか』である。彼女は学園祭実行委員会から、一年生の全てのクラスを総括する学年担当委員長に指名されたのだ。なので、自分のクラス以外の準備のチェックもしなければならず、初めてのことで四苦八苦しながら、なんとか委員長としての仕事をこなしていたのだ。

「ふう……やっと一段落ついたわね」

「ふみか、お疲れさま」

放課後のチャイムが鳴り響く中、仕事が一息つき、教室の机に腰かけたふみかを、クラスメートの女子生徒が労った。

「実行委員、大変ね……部活も休んでるんでしょ？」

「部活に行く時間を遅らしてるだけよ。それにもう大会とかも無いし平気平気」

ふみか は水泳部に所属している。ジュニア時代から地元で注目されるほどの選手で、聖恋学院にも部活推薦で入学したほどの実力なのだ。

しかし、学園祭の実行委員長になってからは、忙しさから部活に参加するのは、学園祭の準備がある程度片付いてからにしている。だから、他の部員たちと入れ替わるような形で、一人で練習することも多いようだ。

「ふみか一人で実行委員の仕事してるから大変なんじゃない？ もう一人の委員にもっと仕事任せたら？」

「しようがないじゃない。アイツは私と違って大事な大会が控えてるんだから、サッカー部の練習も抜けられないみたいなんだし……」

文化祭の学年委員長はふみかだけではない。ふみかは女子の実行委員長で、もう一人、男子の実行委員がいるのだが、その生徒はサッカー部員であり、大会に備えた練習が忙しく、学園祭の準備には来られないというのだ。

「なんでそんなヤツが、私と同じ委員になっちゃったんだろ？ 誰か暇な人と代わってほしいわね」



やや疲れ気味につぶやくふみかに、クラスメートはポカンとした表情で彼女に言った。

「えっ……？　ふみか、ひよつとして知らないの……？」

「何が？」

「彼、夏の大会が終わってから、とつくにサッカー部辞めてるわよ？」

その言葉を聞いた瞬間、ふみかは怒り心頭になりながら大声で叫んだ。

「なっ……！！　なんですつてえええ!!」

ふみかの怒りの声が教室中に響き渡った。

「お……落ち着いて、ふみか！」

「これが落ち着いてられる!?　アイツつてば、私一人に仕事押し付けて、一体今どこにいるのよ!?!」

「た……確か、何人かの男子と一緒に、プールの近くで見かけたって子がいたけど……」

「許せないわ！　文化祭の仕事ほったらかしにしてた事、懲らしめてやるんだから！」

ふみかは顔を真っ赤にしながら、教室をあとにいった。